

## ティーチング・ステートメント

所属 薬学部 薬学科  
名前 星 貴薫  
作成日 2024. 3. 11

### 【責任】

薬学部所属し、臨床薬学に関わる教育・研究活動を行っている。主たる教育活動は感染症、チーム医療論、臨床薬学実習（Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ）である。軟式野球部の顧問も拝命している。社会活動では、札幌病院薬剤師会の理事として、現場薬剤師の生涯研修の学びの場を提供する役割を担っている。また、週 1 回現場に趣き、薬剤師スキルの維持と臨床研究を実施している。

### 【理念】

既存の枠組みにとらわれず、課題発見・解決を繰り返し、新たな枠組みを作り上げられる人材になってもらいたい。また、失敗を恐れず、主体的にチャレンジし続ける人生を歩む学生を社会に輩出したい。

理由としては、「失われた 30 年間からの転換期」である現代社会において、働き方、組織のあり方など多くの変化・改革の波が今後押し寄せてくることが予測される。「AI の発展」も追い風となることは間違いない。これからの社会に求められる人材は、上からの指示に従順な人材でなく、変化に柔軟に対応し、自ら考え、新たな道を構築できる人材と考える。そのためには、教員が一方向的に教える（従順な学生の育成）のではなく、学生と一緒に目線で考え、共に「問い」や「課題」を築き、解決する（学生の主体性、創造性の育成）ことが重要と考える。学生の「やりたい」を尊重し、「個人の得意」を伸ばせるようなコンサルタント的教育を提供する。また、自らが新たな道に挑戦し、自身の行動と目一杯楽しむ背中をみせる続けることが「モチベーション高く、挑戦し続ける人材育成」に繋がると考える。

### 【方針・方法】

#### 概要

上記理念の実現のため、学生と同じ目線で、共に学び成長する姿勢を大切にしていきたいと考える。ライフステージの変化に柔軟に対応しながらも、学びや挑戦を生涯にわたり継続していく大切さを自ら体現し、学生にその魅力を伝承していく。

#### 方針 1：「自ら課題・問題を発見し、解決する力を育む」

##### 方法 1-1：

臨床で実際に発生している問題やクリニカルクエスチョン（臨床的疑問）について共に考える。薬剤師は科学者の側面を兼ね備えている。臨床にでてからもクリニカルクエスチョンを自ら立案できる人材を育成する。

#### 方法 1-2 :

卒後臨床現場で働く学生が多いので、症例検討などを通じて「正解のない問い」を一緒に考える場を提供する。現場から得た生の情報をリアルタイムに学生へ共有する。

#### 方針 2 : 「教員と学生が対等の立場で、一緒に学びを築き上げていく」

##### 方法 2-1 :

講義では、参加型（ライブ投票機能や問題演習）を散りばめる。学生の目線にたち、学生のニーズ（国家試験対策、現場に直結する知識など）を満たす授業構成を心がける。

##### 方法 2-2 :

卒業研究では、自らやりたいテーマが明確な学生（少数）には、学生の希望に添えるよう、可能な限り対応していく。

##### 方法 2-3 :

PF 面談や普段の関わりでは、学業のことだけでなく全人的に学生をサポートする。個々の学生の特性に応じて、主体性を伸ばす支援を心がけ、学生との信頼性を構築する。

#### 方針 3 : 「挑戦する姿をみせ、挑戦する学生を増やす」

##### 方法 3-1 :

6 年制卒薬剤師の一人の先駆者として、既存の薬剤師の働き方に改革を引き起こす。臨床教員、一人の薬剤師として挑戦する背中を学生にみせていく。

##### 方法 3-2 :

自身の座右の銘は「生涯文武両道」である。教員の傍ら、トライアスロンの世界大会へ出場し、薬剤師以外の分野でも生涯にわたり挑戦する背中をみせていく。

#### 【成果・評価】

##### ・学生との信頼の構築

前職の病院に就職内定者を 3 名輩出した。

入職 1 年だが、自身のことを頼って相談にきてくれる学生が数名現れた。

##### ・SP から好評価をいただいた

SP（模擬患者）練習会に薬剤師役として参加し、服薬指導に好評価をいただいた

・ **学生と米国薬剤師との架け橋を作った**

8月に米国薬剤師との交流イベント（学生、教員、薬剤師対象）を開催し、20名が参加してくれた。学生からは、米国薬剤師との意見交換の貴重な場を提供したことで、感謝の言葉をもらった。

・ **薬剤師の専門スキル修得のための学習の場を提供した**

札幌病院薬剤師会の学術研修委員会（感染）の委員長として、現場薬剤師向けに年4回の「感染制御専門薬剤師セミナー」を企画・開催した。

・ **今年度の論文業績**

<https://orcid.org/0009-0004-2223-8471>

**【目標】**

**短期目標：**

- ① 講義：薬と疾病（感染症）で好評価をもらう
- ② 2025年度に論文（共著含む）を4報（筆頭：1、共著：3）
- ③ 推薦入学の学生2名の進級を支える
- ④ 中小病院との共同研究の裾野を広げる（3施設目標）
- ⑤ 中小病院薬剤師の学術レベルの向上（認定薬剤師、専門薬剤師の育成）

**長期目標：薬剤師の新たな働き方を構築する**

近年では、病院、薬局、ドラッグストアなどの既存の働き方ではなく、派遣薬剤師、フリーランス薬剤師、オンライン薬剤師など若者が新たな働き方を求めている。Z世代の興味の転換期が現実化してきており、今後加速すると予測している。既存の働き方ない働き方を構築し、一つの道筋を示していきたいと考える。